

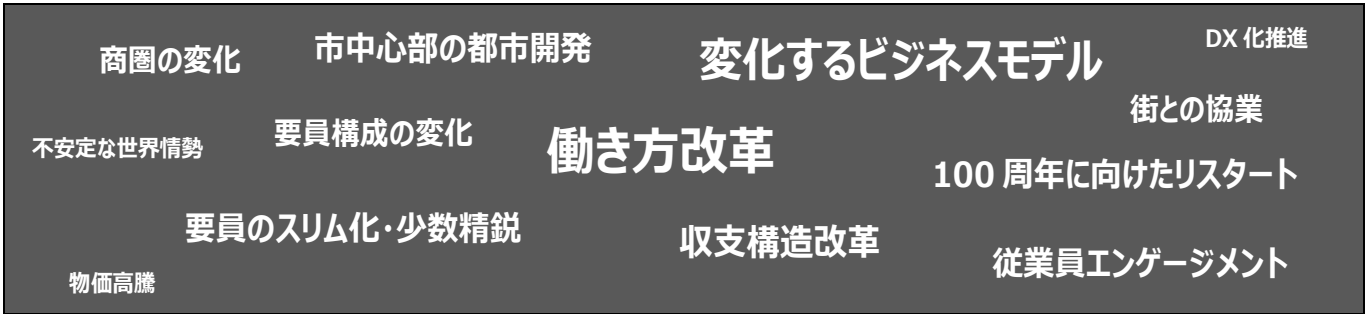
仙台三越支部 第11期前半年度（2024・2025年度）の振り返り

【第11期 支部運動方針の考え方】

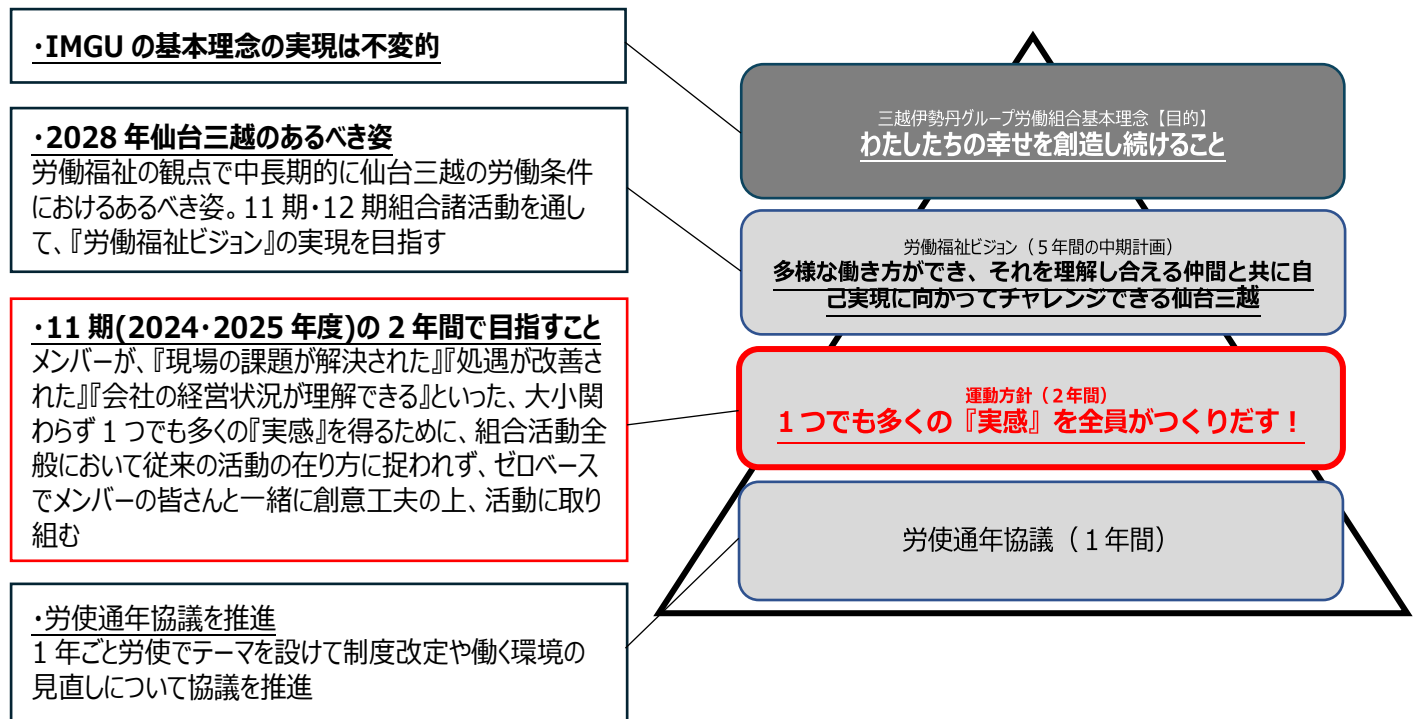
【第11期運動方針タイトル】

1つでも多くの『実感』を全員が作りだす！

■ 私たちを取り巻く環境

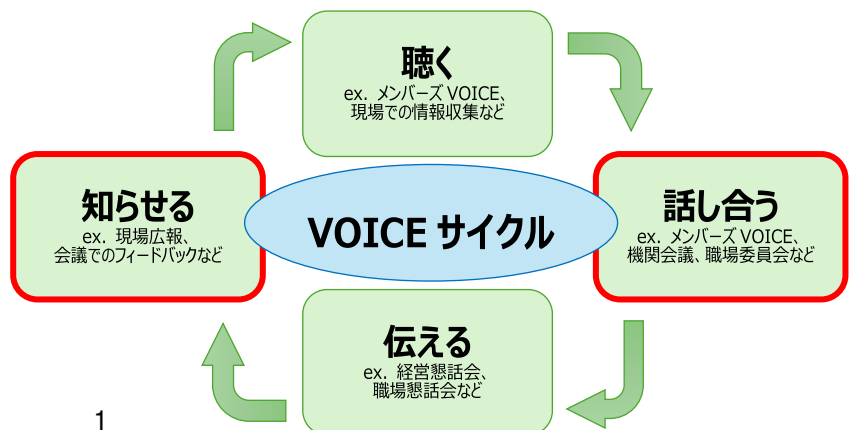


■ 考え方



■ 第11期強化アクション

- ・メンバーの皆さんを巻き込んだVOICEサイクルの推進
- ・大小関わらずメンバーの皆さんと1つでも多くの『実感』を得るために、『知らせる』『話し合う』をより強化



仙台三越支部 第11期前半年度（2024・2025年度）の振り返り

【 第11期前半年度（2024年度下期～2025年度上期）のトピックス 】

●事業会社の動向

- ・ トップラインの低下と売上構成比の変化により差益額が大幅低下、24年度は再度赤字へ転落
- ・ 収支構造改革や働き方の改革により、物流費や人件費をはじめとする経費面の改善は大きく前進
- ・ 安定的な収益基盤の構築と大規模ITモデル計画を滞りなく実施すべく、構造改革や働き方改革のさらなる推進をおこなう

●支部の動向

- ・ グループの考え方に則り、過去最高水準のベースアップを要求し実現
- ・ 労働福祉ビジョン（5か年計画）と会社戦略の方向性を踏まえて、メイト社員人事賃金制度の見直しを実施
- ・ I（One）MGUの取り組み推進しながら、新役員体制となった執行部として現場活動を中心に各種活動を強化

【 活動の振り返り 】

全体の振り返り

- ・ 新任の兼任執行委員が増えたことから、1つ1つ着実に執行活動をおこなった。前期から各種活動の『執行部全体運営』の取り組みを推進しているものの、スピードを速く各活動を取り組む点は課題が残る結果となっている
- ・ 労使通年協議においては、労働福祉ビジョンや中長期的な会社戦略の方向性を踏まえて、メイト社員の人事賃金制度改定を実施。また、グループで推進しているダイバーシティ関連においても制度改定をおこなうことができた

◎：できたこと

- ・ 兼任役員の情報格差を減らすため、定期的な執行部合宿と制度関連やダイバーシティに関する勉強会を実施
- ・ 前期から開催している職場懇話会を実施し、執行部と経営役員との対話の機会を継続できた
- ・ 他支部合同意見交換会を通じて、固定概念からの脱却や執行委員としてのマインドセットをすることができた

△：やりきれなかったこと

- ・ 参加率が低迷しているVOICEにおいて、動画・リアルハイブリッド実施をおこなったものの、動画配信の周知とフィードバック方法には課題残った（VOICEサイクル上の課題あり）
- ・ 労使通年協議、各種制度の成案化については、労働福祉ビジョンの計画から遅れているものもあり、労使協議が一定程度後手に回ってしまった
- ・ 従業員関心の高いセミナー活動がおこなえなかった

【 支部活動の予算執行とポイント 】

予 算	実 績	執行率
2,500,000円	1,683,084円	67.3%
<ul style="list-style-type: none"> ・ 役員の各種会議体はほぼ計画通り実施することができた ・ 現場活動においては、テーマ別VOICEが一部未実施となったものもあり、低位の執行率となった ・ 社会貢献活動（支部独自3.11復興企画）やセミナー活動においては計画をするも、動員の苦戦や活動計画が滞り、低位の執行率となった ・ I（One）MGUの取り組みとして、他支部合同意見交換会の実施により旅費・交通費は計画通りの執行率となった 		

仙台三越支部 第11期後半年度（2025・2026年度）後半年度に向けて

【 取り巻く環境 】

- ・ 全国的に最低賃金の引上げは加速的に進んでおり、宮城県においても直近は過去最大の引き上げ幅を更新している状況。今後も引上げに向けた動きが続くと想定される
- ・ 仙台市の経済は、仙台青葉商圈を筆頭に広域からの集客と増加する足元需要の両輪で、様々な企業の売上高が回復傾向にあるものの、インバウンドの取り込みに課題が残っている。一方で、仙台市中心部に商業施設のイオンモール上杉のオープンや、市役所新庁舎の着工、定禅寺通りの再開など、中長期的に街の開発において新たな局面が見える期待もある
- ・ 三越伊勢丹グループと同様に、仙台三越においても2025年度は新中期経営計画の初年度であり、中長期的には『大規模モデル』の実施を計画。滞りなく計画を進めるためには、個客業への転換や特化領域の確立に向けた取り組み、また、販管費の機動的コントロールをはじめ構造改革の推進が必要不可欠となる
- ・ 2025年度の春の交渉では、想定を超える物価上昇や社会的な賃上げ動向を踏まえて、グループの考え方に則り過去最高のベースアップ要求を実施。今後も、物価動向や採用賃金の動向を踏まえたベースアップの対応が重要となる

【 取り巻く環境と前半年度振り返りを踏まえ、後半年度に向けた考え方 】

- ・ VOICEサイクルをより活性化させていくためには、課題である『知らせる』のアクションに加えて、サイクルの次のアクションを意識した活動を執行部一人ひとりが意識して取り組みをおこなうことが重要となる
- ・ 企業の状況や世の中の状況は目まぐるしく変化しており、従業員の価値観も同様に大きく変化しているため、VOICEをはじめとする現場活動においては、より一段とスピード感を持って取り組みを推進することが重要となる
- ・ 第11期期初にたてた『1つでも多くの「実感」を全員がつくりだす』をキーワードに、中長期的な企業状況や私たち一人ひとりのキャリアの在り方を見据えた議論をおこない、企業風土や人に関わる諸制度を見直し、労働条件の向上を目指す

【 重点取り組み（具体的な活動） 】

VOICEサイクルの進化

- ・ 兼任執行委員による職場委員会の運営を本格始動し、現場の実態把握を執行部全員でおこなう仕組みを構築する
- ・ 各種VOICEにおいては、実施の目的を明確にして、動画・リアルハイブリッドを継続実施。特に動画配信に関しては、周知するアクションも強化しておこなう
- ・ グループ連邦が推進される中、事業会社の枠を超えてEMアイカード支部との合同職場委員会を実施し、支部双方の現場課題の共有や一人ひとりの働き方改革のきっかけづくりとしていく

労働福祉活動

- ・ 労働福祉ビジョンをベースとしながら、会社戦略や中長期計画の方向性を踏まえた制度改定や成案化をおこなっていくことが重要となる。そのため、労使協議や執行部議論においては、現状のみならず先を見据えて私たちの働き方やキャリアなどがどのように変化するかを想定し、取り組み項目を選定しスピード感をもった労使通年協議の推進をおこなう
- ・ 執行部内の議論においては適宜執行部合宿をおこない、1人ひとりが高い腹落ちで議論をおこなう体制を11期前半年度同様におこなっていく。また、労使協議においては、計画的に労使事務局合宿をおこない、労使の意思決定においてよりスピードを意識した協議体制の構築を目指す

経営対策活動

- ・ 中期経営計画を推進していく上では、仙台三越の方向性はもちろんのこと私たちの働き方やキャリアに大きく関わる構造改革のアクションが想定される。そのため、労使懇話会をはじめ各種労使会議においては、経営に対してのチェック機能をより強化しながら、企業の状況を常に正しく把握し、メンバーへのリアルタイムな情報発信をおこなう

- ・ 現場の課題解決や業務改善となる『成果』を意識して、職場懇話会をはじめとする経営との対話を計画的に実施する

兼任役員のスキル強化

- ・ 執行委員の情報格差・スキル差を埋めるべく、定期的な支部内勉強会を実施。人に関わる制度関連はもちろんのこと、組合役員としてのマインドを醸成し、各種活動をよりよいものにしていく
- ・ 本部人材育成や東北生産性セミナーといった外部講座の機会を最大限に活用し、固定概念に留まらない様々なスキルや考え方をインプットする。また、アウトプットする場としても職場委員会やVOICE、各種会議において兼任執行委員主体の運営とVOICEサイクルのさらなる推進を目指す
- ・ 自支部がこれまでおこなってきた活動や考え方に留まらず、執行委員としてはもちろんのこと職制の業務においてもマインドセットをおこなうことを目的に、他支部執行委員との合同交流会を実施

その他現場活動

- ・ レクリエーション活動としては、所属ごとのコミュニケーション醸成の機会をつくるきっかけとして、職場親睦会補助制度の周知・運用をおこなう
- ・ 組合員教育セミナーは、第11期前半年度未開催となってしまった反省点を踏まえて、従業員関心の高いセミナーの企画立案、実施をおこなう
- ・ 社会貢献活動については震災からの経過年数や街の復興状況、私たちの意識の変化を踏まえて、これまで継続しておこなっている支部独自3.11復興企画の活動の在り方を再考し、実施をおこなう

【 支部活動予算とポイント 】

予 算	前期実績	前期比
1,990,000円	1,683,000円	118%

<主な費目>

- ・ 現場活動費では、職場課題や制度改定を見据えた意見交換のためのテーマ別VOICEを計画的に実施予定（162千円）
- ・ レクリエーション費では、職場内のコミュニケーションのさらなる醸成を図ることを目的に職場親睦会制度の運用をおこなう（335千円）
- ・ 組合員教育費では、従業員関心の高いライフとワークともに活かすことができる企画の立案・実施を予定（100千円）
- ・ 社会貢献活動費については、継続しておこなっている支部独自3.11復興企画において、メンバー一人ひとりの復興や防災意識の更なる醸成につながるよう、企画をアップデートして実施する（162千円）
- ・ 渉外費については、上部団体のUAゼンセンや友好労組藤崎労働組合との意見交換会の実施を予定（135千円）